

がんと闘い、共に生きる人を支える < 今こそ知ってほしいがん治療「消化器がん薬物療法・がんゲノム医療編」 > 四国がんセンター医師が語る。



国立病院機構
四国がんセンター
がんゲノム医療センター部長
(専門 消化器内科)

仁科 智裕

愛媛のがんゲノム医療を提供する医療機関

がんゲノム医療拠点病院(全国33病院)

- 四国がんセンター

がんゲノム医療連携病院(全国188病院)

- 愛媛大学医学部附属病院
- 愛媛県立中央病院
- 松山赤十字病院

消化器がんは、がんの中でも一番多い疾患ですが、その中でも胃がんや大腸がんは早期発見して手術や内視鏡で切除ができます。症状が無くても、検診でがんを指摘される場合もあるので、検診は大事です。しかし、最近の新型コロナウイルス感染症の広がりが続いていることも影響し、受診や検診控えて、がんが悪くなって手術で切除ができない状態で発見される患者さんが増えている印象があります。

手術で取れない場合の消化器がんの治療は主に薬物療法や放射線治療が選択肢になります。今回は近年著しく進歩しているがん薬物療法(胃がんを例にして)とがんゲノム医療についてのお話させていただきます。

♥ がん薬物療法は年々進歩しています

今から約25年前頃には、手術でがんをすべて取り除くことができないと判断された場合や再発が認められた場合の胃がんに対する薬剤の種類は少なく、がん薬物療法の治療成績は満足いくものではありませんでした。近年、より治療成績の高い薬剤が開発され

てきています。細胞障害性の薬剤(いわゆる抗がん剤)に加えて、分子標的治療薬(がん細胞の増殖にかかわる分子を標的とする薬剤)を使用する薬物療法と免疫チェックポイント阻害薬(がん細胞が免疫から逃れようと体内の免疫に

ブレーキをかけるのを防ぎ、体内にもともとある免疫細胞を活性化させる薬剤)を使用する免疫療法の選択肢が増えました。胃がんにおいては免疫チェックポイント阻害剤と抗がん剤の組み合わせが初回に使用する薬物療法として保険で承認され、より長生きできる患者さんが増えてきました。また、初診時には手術が困難と判断されても、薬物療法によりがんが著明に小さくなり、手術が可能になる患者さんもいらっしゃいます。

♥ がん薬物療法の副作用は軽くできます

患者さんにとってみると、がん薬物療法が効いてよかったといっても「一体いつまで副作用のある治療を継続するのか?」といった副作用に対する不安が付いて回ります。そのため薬剤の副作用の対策(支持療法)は重要です。近年、少しでも楽にがん薬物療法を受けることができるように、吐き気止めなどの有効な支持療法が開発されています。以前とは比較にならないほどに支持療法が充実し、副作用に苦しむ程度や頻度が少なくなってきました。また、医師だけでなく看護師や薬剤師、栄養士などのチーム医療が広がっており、複数の視点から患者さんの情報を得て、それに対する指導やアドバイスをしてくれます。

♥ がんゲノム医療を提供する体制整備が進んでいます

がんはさまざまな要因により生じた遺伝子の変化(変異)が原因

で起こる病気です。その遺伝子の変異は患者さん一人一人で異なります。がんの発症に関連した数十~数百種類の遺伝子を網羅的に調べ、患者さんの治療や診断に役立てる医療を「がんゲノム医療」といい、それに用いる検査を「がん遺伝子パネル検査」と呼びます。

がん遺伝子パネル検査はがんの組織や血液を用いて検査します。保険診療での検査は標準治療(薬物療法)がない、または終了(予定も含む)したなどの条件を満たす場合に行われます。全国どこにいても質の高いがんゲノム医療を提供できる体制を構築するための「がんゲノム医療を提供する医療機関」として、がんゲノム医療中核拠点病院、拠点病院、連携病院が整備され検査を受けることができます(表参照)。保険診療で検査を行った場合は、がん診療中核拠点病院や拠点病院において行われる「エキスパートパネル」という専門家の集まる会議にて、患者さんに適した薬物療法があるかどうかを検討されます。その結果は担当医から患者さんに説明され、治療を選んでいくこととなります。がん遺伝子異常がみつきり、保険適用で効果が期待される薬剤がある場合には、治療の選択肢が増えます。また、治験や臨床試験で適した薬剤がないかも検討します。それでも現在、効果が期待される薬物療法が見つかる患者さんの割合は10%程度です。一方で、治験や臨床試験に参加したとしても効果については個々の患者さんによって異なりますので、治療の実施については担当医とよく相談することが必要です。



独立行政法人 国立病院機構

四国がんセンター

愛媛県がん診療連携拠点病院・がんゲノム医療拠点病院

〒791-0280 松山市南梅本町甲160番

☎089-999-1111